

## アキール文庫地方史コレクション

アキール文庫は南アジア、特に北インドおよびデカンの歴史や文学に関する書籍を多数所蔵しているが、歴史に関しては、ムガル以前、ムガル期、スィク期、英領期、1857年インド大反乱期、独立運動期、ナショナリズム関連、パキスタン構想、印パ分離独立後などに分けられている。こうした時代区分によって所蔵された書籍のほかに、地方史のコーナーが設けられている。地方史は、デリー、ラクナウー、デカン、ムンバイ、マイソール、パンジャーブ、ラーホール、スィンド、ベンガル、ビハール、北西辺境州(現パフトゥンフア州)などの各地域によって分類されている。このため、ムガル期のデリーの歴史に関する資料を探す場合、ムガル期の書棚と共に、デリーの歴史に関する書棚を確認することとなる。

一般に南アジアの地方史については、インドやパキスタンの図書館や個人蔵書の場合、図書館がある地域の地方史を中心として所蔵されており、むしろ日本など南アジア以外の図書館の方が全地域についての書籍を収集している場合が多い傾向がある。アキール文庫は、南アジアの諸地域の歴史書や地誌を網羅的に、1960年代から収集している点で特徴的である。特にウルドゥー語による出版物のなかには現在入手不能なものがあり、こうした書籍で構成されている地方史の充実したコレクションは他に類を見ないであろう。特に、アキール博士の生誕地であるデカンに関する文献は、小冊子の体裁の文献まで良好な状態で保存されており、『(書名が入ります)』、『(書名が入ります)』など、現在入手不能な希少文献が多数存在する。

また、ムガル期にヒンドゥーの文人によってペルシア語で書かれた、ペルシア語の作文作法を記した *Cahār Caman* のように、ムガル期の北インドの社会を知る貴重な手がかりとなる文献もこのセクションに含まれている。

地方史のなかでも、アキール博士の出身地であるデカンに関する文献が多いことは特筆すべきであろう。デカンは14世紀以降ムスリム王朝の拠点であり、大英図書館には16、17世紀にデカンで書かれたペルシア語の辞書や詩集などの写本が所蔵されているが、こと近世以降の研究所や地誌に至っては、これをまとめて所蔵している図書館は多くない。わが国においてもその状況は同じで、これは、南アジアのウルドゥー語文献を収集してきた大阪大学(旧大阪外国語大学)、東京外国語大学が、大学におけるウルドゥー語、ヒンディー語の教育・研究について北インド、パキスタンを中心に進めてきたため、おのずとデカンへの関心の低下を招いてしまったことがその背景に挙げられよう。高橋明大阪大学大学院言語文化研究科教授のもとには、同氏がデリー大学で執筆した修士論文でダカニー文学を扱ったため、個人蔵書として文学作品を多く所蔵されている。だが、地誌に関しては、このアキール文庫がおそらく最大規模のものであると思われる。インドでのウルドゥー語文献の出版量が低下していくなか、60年代から80年代までに刊行された書籍群はすでに入手不能のものが多く、本コレクションはこうした不備を補って余りあるものといえる。

デカンの地誌の中には、Kāzīm ‘Alī Khān etc. eds. 『デカンの歴史 *Tārīkh-e Dakan*』, 3 vols (AQEEL||A||202||25, 32, 36)のような貴重本のほか、Razzāqī, Shāhid Ḥusain, *Nawāb Bahādur Yār Jang kā Rozmānca*, おいて Bahādur Yār Jang Academy (AQEEL||A||204||37), のような私家版のナワーブ(太守)の日記なども所蔵されている。ほかにも、『デカン文化 *Dakanī Kalcar* (AQEEL||205||12)』、『デカンの贈り物 *Soghāt-e Dakan* (AQEEL||A||204||20)』といったデカンの文化の紹介本のほか、冊子体の刊行物も多数所蔵されている。また、英語文献でも Ian Austin, *City of legends The Story of Hyderabad*, Viking (AQEEL||A||202||8) や、Ray, Bharati, *Hyderabad and British Paramountcy 1858-1883*, OUP (AQEEL||A||202||8)、Kamalapur, *The Deccan Forts* (AQEEL||A||202||21), Popular、M.A. Nayeem, *Mughal Administration in Deccan* (AQEEL||A||202||19), Jaico Books、Verma, *Social Economic and Cultural History of Bijapur* (AQEEL||A||202||24), 等々の南インド各地に関する資料も多数所蔵されている。南インド・マイソールの歴史に関しては、おのずとティーパー・スルターン関連の文献が多く、Muḥib al-Ḥasan *Tārīkh -e Ṭīpū Sultān* (AQEEL||A||208||24)のような著作が、ティーパー・スルターンを反英運動の英雄としていかに評価しているかが明らかとなる。

デリーに関する地誌には、『デリーの歴史的な場所 *Dillī ke Tārīkhī Maqāmāt* (AQEEL||A||302||24)』、『デリーの歴史的なモスク群 *Dillī kī Tārīkhī Masājīd* (AQEEL||302||23)』、『歴史的観点からのデリー *Dillī Tārīkh ke Ā'ine men* (AQEEL||A||301||24)』、『デリーのともしび *Carāgh-e Dillī* (AQEEL||A||301||23)』(ニザームッディーンらと並ぶデリーの有名なムスリム聖者の名前)など、デリーのウルドゥー・アカデミーが刊行した一連の書籍はもちろん、ペルシア語の文献 Qāsmī, Sharīf Ḥusain, *Sair al-Manāzil*, Ghalib Institute, や Dhākī, *Muraqqa' -e Khusravī*, のような中世、近世のデリーを描いた作品も所蔵されている。

アワド藩王国やラクナウーに関する文献もウルドゥー語、英語ともに豊富で、*King Wajid Ali Shah Awadh* (2vols)のような藩王の伝記のほか、*Wajid 'Ali Shāh kī Shā'irī aur Marthīye* のように、藩王の文学活動に関する書籍も含まれている。すなわち、ワージド・アリー・シャーを文人より為政者として評価するために、この棚に所蔵されているものと考えられる。もちろん、ワージド・アリー・シャーの詩作の研究は、アワド藩王国の社会・文化を学ぶ絶好の資料となることに疑いはない。パンジャーブの地方史については、雑誌『ヌクシュ *Nuqūsh*』ラーホール特集号のような現在入手不能ながらもよく知られた書籍はもとより、パンジャーブ北西部の小都市ハサン・アブダール(Ḥasan Abdāl)の歴史や南部の藩王国バハーワルプール(Bahāwalpūr)など、地方諸都市の地誌がおさめられている。またスインド州のムスリムにとっての聖地ウッチ(Ucc)や小都市ハイルプール(Khayrpūr)など、各地域の都市に関する書籍も網羅的に所蔵されている。ウッチは聖者廟でも知られていることから、スインドの聖者に関する文献を調査する場合、聖者伝のセクションのみならず、この地方史の部分も見ることがある。地方都市の歴史に関する文献は、その都市の小さな出版社から刊行

されたものが多く、発行部数も限られているために、刊行後数年もたつと入手困難となる場合が少なくない。こうした地誌が南アジア各地のものを網羅的に含んでいる点もまた、アキール文庫の特筆すべき点であろう。